



クリスマスカードありがとう！
— 教育支援会員募集中です —



2016年1月25日発行

NPO 法人ビラオンの医療と自立を支える会
(英文名略称・HANDS)
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail: hands-mindanao@nifty.com
<http://homepage3.nifty.com/hands/>
郵便振替口座 00210-5-72693
(加入者名) ビラオンの医療と自立を支える会

20 年来のパートナー、CMIP 地域で見たこと、聞いたこと — 11 月の現地モニターから —

11月18-24日、2015年としては3回目の現地訪問を実施しました。2月上旬の「よこはま国際フォーラム」で、20年間の医療事業の成果に触れることにして、モニター予定には最も古い支援先の一つCMIPエリアのアトモロックも含めました。

ミッションを通じての支援は、79号本欄で触れたように、現状では認定NPO法人化申請上支障があると分かりました。しかし、辺境を含むCMIP地区の医療や教育のニーズはまだ大きく、ここでは現地情報を皆様と共有し、パートナー問題を含めて助言をいただけたらと思います。

— CMIPの新方針 — 民族の伝統文化復活 —

訪問初日、CMIP本部に着いてまず案内されたのはビラオン民族伝統の家です。(写真)



長老に続き、家の周りを回った後、高床式の家に入り儀礼に参加しました。伝統復活はメールで聞いていましたが、街中のノビシエートでの歓迎がビラオン式だったのには驚きました。次に向かったサムラングでも、案内されたのは、HANDSが支援した水道の水源域で、長老が湧水に祈りをささげ、民族衣装の少女がダンスを奉納しました。

今でも水道竣工式では、鶏の生き血を捧げるなど伝統儀礼が見られます。しかし、今回の訪問で見たものは、伝統的民族文化全体の復活支援です。

ディレクター就任 2 年目のマーク神父は、農業が大好きというだけあって、すでにご報告のように、野菜やコーヒー栽培では着実に成果を上げています。一方、今回の伝統復活事業については、本号 P7 でご紹介のように、同じノビシエートに拠点を置く JPIC の影響や強力なサポートによるものと分かりました。

民族の伝統と環境を守り、自立をめざす先住民族へ

の両者の支援姿勢は当団体と共通します。教会から独立した NGO をめざすという JPIC を、CMIP にかわる協働相手とする方法もあります。但し、名称に Mission の文字はなくても、JPIC にもまだ強い宗教色を感じます。

— アトモロックの電化に CMIP は反対？ —

アトモロック出身の元奨学生で村議でもあるスヌーリアから、CMIP の反対で電気が引けない、住民が困っていると聞いていて、現地でマーク神父に真偽を確認しました。電気が入ると、鉱山会社 SMI は大型機材使用が可能になり、環境破壊や先祖伝来の土地収奪が起きる。住民の選択は電気より SMI 阻止という説明でした。

アトモロックでは、医療支援成果のヒアリングを予定して、電気に関しても、直接住民の声を聞くつもりでしたが、村に続く道で起きた土地問題に絡む殺人事件により、急遽訪問は中止となってしまいました。

電気と鉱山の両会社が結託して、村長や村議をまず取り込むという開発企業の戦略に、新米村議のスヌーリアが巻き込まれた可能性もあります。一方で、CMIP マーク神父の明確な反電化姿勢には、開発より民族の伝統と環境保全重視の JPIC の理念の強い影響を感じました。

— ミッションから行政へ— ボルールの教育と伝統保存 —

訪問 2 日目、卒業生チーム BOSDA によるゴム苗木事業モニターのため、ボルールに立ち寄りしました。州都コロナダル市の辺境に位置するこのビラオンの村訪問については、市職員のエルリックさん (COWHED 元マネージャー、ジェマさんの弟) から同行希望があり、その案内で訪ねたネルミダ公立小の敷地には、市の支援で民族楽器や衣裳が展示された伝統の家が立ち並んでいました。

ボルールは 1960 年代に始まる CMIP の先住民族支援拠点で、教育と伝統継承は長くミッションが担ってきました。今回、ビラオン支援の少なくとも教育と文化継承が、ミッションから行政に移った現場に立って、私たちの活動の着地点の一つを垣間見た気がしました。(山崎)